



目次

巻頭コラム「森於菟と台湾」 呉佩珍(国立政治大学台湾文学研究所) / 展示会場から / ボランティア活動ノート / 文京区立森鷗外記念館開館5周年記念「開館5周年にあたって」成澤廣修(文京区長)・「森鷗外記念館5周年を思う」加賀乙彦(文京区立森鷗外記念館名誉館長) / 次回展示のお知らせ 特別展「明治文壇観測―鷗外と慶応3年生生まれの文人たち」 / 展示報告 / 活動報告 / これからの催しもの / 2017年度後期開館カレンダー / 編集後記

# 森於菟と台湾

台湾が森鷗外・於菟親子と深いゆかりの地であるという歴史的事実は、あまり知られていない。日清戦争で清国が日本に敗れ、台湾は日本の植民地となった。鷗外は一八九五年五月、北白川宮能久親王が率いる近衛兵団にしたがって、台湾に上陸するが、鷗外の滞在期間は、四ヶ月弱であったと島田謙二は述べている(『征台陣中の森鷗外』『華僑島文学』日本詩人の台湾体験一九〇五年)。北白川宮能久親王はこの台湾での戦役で亡くなっているが、鷗外が後に書いた北白川宮の伝記『能久親王事蹟』は一九〇八年に出版されている。

鷗外の息子・於菟は一九三四年八月下旬、初めて台湾の土地を踏んだ。「蕃人並に本島人をいろいろ人類学上から研究して見たい」というのが、その目的であった(『台湾日日新報』一九三四年八月七日)。南島人種の調査に興味を持ち、解剖学を専門としていた森於菟にとって、台湾は魅力的な調査地であった。この時の調査から一年余り後、森於菟は再び来台する。金閨丈夫とともに、解剖学の教授として、一九三六年四月より創設された台北帝国大学医学部に赴任することとなったのだ。一九三九年永井潜が北京大学医学部の顧問として赴任した後、医



台湾大学医学部人文館に飾られた森於菟の肖像写真。  
この写真に加え、第六代医学部長時代(1944年10月~1945年12月)の肖像写真も飾られている。

## 呉佩珍 (国立政治大学台湾文学研究所)

学部長になり、台北帝国大学医学部の森於菟時代が始まる。

一九四五年八月日本は敗戦を迎えるが、森於菟は同年一〇月一〇日、中華民国政府から台湾大学の留用教授を任ぜられ、その台湾時代は一九四七年四月二十五日、基隆港から日本に帰国するまで続いた。

森於菟に対して台湾文壇、とくに在日日本人作家は、鷗外の息子ということで多大な期待を寄せた。その期待は、最初於菟が台湾を訪れた一九三四年九月、台湾愛書会の要請で森於菟教授に故鷗外博士の話を訊く座談会が開かれたことからも伺える。これは、台湾において初めての森於菟による鷗外の紹介といえる。在日日本人文学者は、森於菟を介して鷗外の文業をより深く理解しようとした。於菟の妻・富貴によるなら、台北帝国大学に赴任したのち、英文学者天野峰人、島田謙二との付き合いも始まったらしい。

森於菟は植民地台湾にのみ流通していた雑誌に、幾つかの随筆やエッセイを発表し、その中には鷗外の文業の顕彰も含まれている。台湾で発表した文章のなかで、鷗外に関するものは、「或る日の鷗外」(『台大文学』一九三六年一〇月)、「鷗外と書画」(『台大文学』一九三九年四月)、「觀潮樓物語」(『台湾時報』一九四三年一〜三月)、「鷗外のことば」(『台大文学』一九四三年四月)、「鷗外のことば」(『文芸台湾』一九四三年五〜六月)などがある。

一九三六年四月森於菟は台湾に赴任するにあたって、自らの管理下にある父・鷗外の遺品をすべて台北帝国大学宛に郵送した。到着後、その中の一箱が見当たらないこと

に気づくが、それは鷗外の「日本芸術史」草稿の一部であつたらしい。鷗外の旧居、觀潮樓が焼失した後、森於菟は父の記念品のすべてを台湾に運ぶという、よそ目から見れば、無分別にもばかげたことを決行したもののだが、この火災のために遺品を何ひとつ失わなかったことを何よりの喜びとしたのであつた(『森於菟』父親としての鷗外一九九二年)と述べている。

一九四四年三月末、戦況が不利になったため、森於菟は、鷗外の遺品に入っていた額や大型の掛け物など大切なもの二十点余、油紙で丁寧に包装して台北近郊士林のトンネルにしまいこんだ。一九四五年一〇月一〇日、台北帝国大学が正式に中華民国政府に接収され、国立政治大学となり、先述したように、森於菟をはじめ、金閨丈夫などの日本人教師は留用されることになった。

一九四七年四月二十五日に、森於菟一家は基隆より帰国した。鷗外の遺品の一部は、森於菟が自ら持ち帰ったが、残った一部が、於菟は厚い信頼を寄せていた弟子の蔡錫圭博士に保管を依頼した。遺品の保管や、返送の交渉、そして台湾省政府の対応の変転などを受け、蔡錫圭教授の苦勞は並々ならぬものがあつたという。一九五三年九月、森於菟の台湾に残されていた遺品は、やっと日本に到着する。この顛末をめぐると台秘話について、森常治は著書『台湾の森於菟』において次のように述べている。「日本近代文化の代表者のひとりたる森鷗外の遺物が今日の日本に保管されている、というまこと奇跡ともいえるような快挙を実現したのは、日本植民政策から解放された台湾の人々によつてであつた、というこの事実、決して忘れざることはできない」(二二頁)。

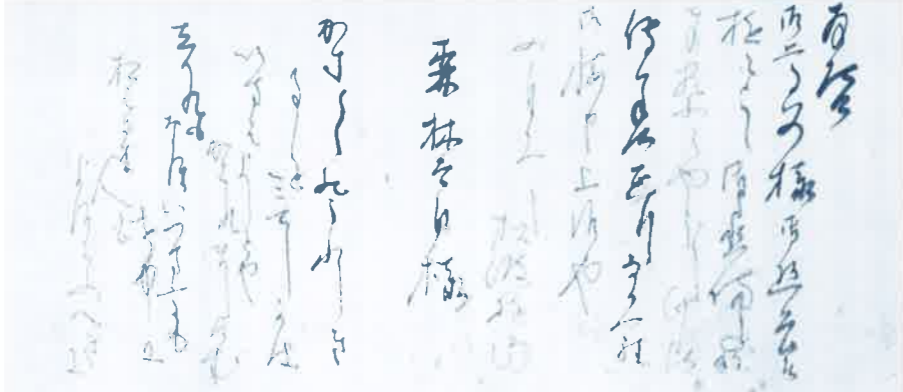
また、鷗外の「形見」として台湾に残されている蔵書がある。一九一四年の春に、鷗外は東大医学部を卒業して一年余りの息子、

## 展示会場から

明治29年1月、鷗外は友人の幸田露伴、齋藤緑雨とともに文芸雑誌「めさまし草」を創刊します。文芸時評や合評が話題を呼びましたが、創刊から終刊までのほぼ全ての号に詩歌欄が設けられていました。子規をはじめとした、夏目漱石、高浜虚子、河東碧梧桐ら子規一門による俳句、佐佐木信綱や井上通泰らの和歌、森槐南や野口寧瀆、落合東郭らの漢詩が掲載されました。

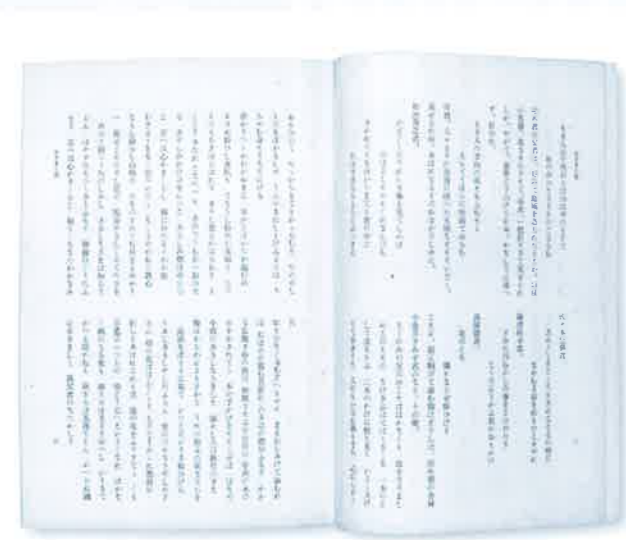
### 松波遊山筆鷗外宛て書簡

明治29年4月10日 [49522]



拝啓  
御尊父様御逝去御  
遊候よし御愁傷之程  
奉察候やうやう此頃  
伝承候延引ながら  
御悔中上候也  
四月十一日  
松波遊山  
森林太郎様

かすかすのうれしき  
事をミてしかは  
いまはよしとや  
かくれましけむ  
しかれども  
なほいつまでも  
世中に  
おはさば人も  
よろこぶへきに



『軒のしのぶ』  
「めさまし草」巻之5より [1F-X1]

当館では、歌人・松波遊山(本名・資之、天保元〜明治39年)が鷗外に送った書簡を所蔵しています。遊山は、若い頃から歌人・香川景樹のもとで学び歌塾・東塲塾を主宰、明治に入つてからは皇太后宮内舍人となった人物です。また明治22〜28年頃、井上通泰に歌を教えています。「しがらみ草紙」32号(明治25年5月)には遊山の「国民之友」第百四十九号古代勅撰和歌批評を讀む」が掲載されており、この頃から鷗外と交流があつたと推測されます。

本書簡には、鷗外の父・静男が逝去(明治29年4月4日逝去)したことへのお悔やみと、歌がしたためられています。この歌は、「めさまし草」巻之5(明治29年5月)に掲載されました。同誌では歌人・落合直文による静男の追悼記事「軒のしのぶ」が巻頭に組まれ、遊山に加えて、鷗外の妹・小金井喜美子、信綱、虚子、関澄桂子(歌人)による哀悼の詩歌も掲載されています。穏やかに優しくかつと言われる静男の人物が偲ばれるとともに、森家の人々と詩歌人との交流が垣間見られます。

本資料は、特別展「明治文壇観測―鷗外と慶応3年生まれの文人たち」開催に合わせて展示します。

## 森於菟に全医学論文抄録のアルヒーフ(注:アーカイブ。ドイツ語)数十巻を譲っている。このアルヒーフはのちに森於菟が台湾に赴任するとき、自分の医学蔵書とともに持参し、学生の教育、ことに研究生の論文作成に役立った。日本に帰国する際、於菟は自分の医学関係のすべての蔵書を台湾大学に寄付している。元来、森於菟は、「この大学の私の医学研究」と、この大学の発展のため、台湾に骨を埋める覚悟であった。また、「敗戦により帰国する私がこれらのものを持って帰れぬ事を父も寛恕してくださるであろう」と、台湾医学研究と教育事業への思いを語っている。

森於菟の胸像の設置は、二〇〇四年一月一八日に「森於菟教授胸像揭幕典式」として台湾大学医学部の本館で行われた。現在、この胸像は台湾大学病院景福館の入り口に立っている。そして、第三代と第六代医学部部長を務めた森於菟の写真は、医学部人文館の壁に飾られている。森鷗外・於菟親子と台湾という土地とのあいだの不思議な縁はいままお、脈々と続いている。



呉佩珍 ぐはいちん  
筑波大学言語学研究所博士、国立政治大学台湾文学研究所准教授。日本近代文学、日本統治期日本台湾比較文学、文化。『真杉静枝と殖民地台湾』(台北:聯經出版、2013年9月(中文))、『日本の「台湾植民地」』(『台湾研究』Vol.1 No.1 2014年6月)、『シェイクスピア翻訳「オセロ」』(『異文化理解とパフォーマンス』春風社、2016年)などがある。

## ボランティア活動ノート

今年4月、第3期となる展示ボランティアガイドの募集を行いました。5月から7月まで開催した鷗外講座基礎編は、多くの皆さまに鷗外について広く知っていただくと同時に、ボランティア養成講座も兼ねています。全5回にわたる講座の参加を経て、3名の新規ボランティアが新たなメンバーに加わりました。



8月半ばは当館の概要や、館内案内についてのレクチャーに参加。9月から先輩ボランティアとともに活動を開始し、10月より開催の特別展開幕とともに独り立ちの予定です。

展示ボランティアガイドによる解説は、土日祝日の13時から15時からの計2回実施しています。庭園から展示室など館内全域を、30〜40分で巡ることが出来るツアーです。予約不要、参加費無料(要展示観覧券)ですので、ご来館の際には是非お気軽にご参加ください。

# 文京区立森鷗外記念館開館5周年記念 開館5周年にあたって

文京区長 成澤廣修

文京区立森鷗外記念館は、文京ゆかりの文豪・森鷗外生誕150周年を記念して、平成24年11月1日、旧居である千駄木団子坂上「観潮楼」の跡地に開館し、本年5周年を迎えました。

鷗外は、60歳で亡くなるまでの後半生約30年間をこ千駄木で過ごしました。後世に残る数多くの作品が生み出された地であり、また、愛する家族との生活が営まれ、文化人たちと広く交流した場所でもありました。

これまで記念館では、小説家、翻訳家、陸軍軍医など、いくつもの顔を持つ鷗外が残した業績や文化人たちとの交流などについて、年2回の特別展をはじめ、所蔵資料を活用したコレクション展、鷗外研究者を講師とする講演会、鷗外をキーワードに展開するワークショップなど、さまざまな角度から顕彰し、その都度広く発信して、24万人を超える来館者をお迎えしてまいりました。

また、本区所蔵の鷗外関係資料も、多方面からのご寄贈や、森鷗外基金を活用した新規購入などにより充実を図りました。特に、平成26年12月に鷗外の三男・森類旧蔵資料約6,400件がご遺族から寄贈されたことにより、今後の鷗外研究・顕彰が更に進んでいくものと期待しております。

一方、本区においては、鷗外を絆として、地域や国境を越えた交流も生まれています。鷗外生誕の地である島根県津和野町、陸軍軍医としての赴任先である福岡県北九州市と本区は、文化振興及び地域の活性化に関

する三者協定を結んでおります。また、鷗外が陸軍省派遣留学生として留学した地であるドイツ・ベルリンの鷗外記念館とも交流があり、同記念館は、今年で開館33周年を迎える歴史をもっています。本年3月には常設展示室がリニューアルされ、私も5月に拝見する機会を得ました。正に、鷗外という一人の人物が残してくれた縁が、時間と空間を超えて、現代に生きる私たちを繋いでいます。

このように、本区が鷗外を通じて多方面との連携を深め、記念館においても充実した活動を展開できましたことは、ひとえに森家をはじめ、鷗外顕彰に携わる関係者の熱意とご尽力の賜物であり、改めて心から感謝を申し上げる次第です。

記念館では、鷗外の偉大な業績を顕彰し、貴重な遺産を後世に引き継ぐだけでなく、新たな交流を生み出す場所として、皆様に出会いと発見の喜びをもたらすことができますよう、一層多彩な活動を展開してまいります。皆様のご来館をお待ちしております。今後とも変わらぬご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 森鷗外記念館5周年を思う

文京区立森鷗外記念館名誉館長 加賀乙彦

2012年11月1日に開館した記念館が5周年を迎える。驚くのは、鷗外が60歳の若さで生涯を閉じたという事実である。彼の人生を追って、記念館が丹念にその一生を追った展示をしてきたことが懐かしい。

最初(2012年)に、鷗外の一生を概括する展示が、入門編としての役目を果たした。つぎ(2013年)に、留学時代に朋友であった「洋画」家原田直次郎を紹介し、翌年(2014年)に欧州風の演劇を導入した鷗外の「新劇」界における活躍ぶりが集められた。この試み、文学の側から見た美術と演劇の「新世界」を概括して面白く、なにしろ若き日の鷗外の活動はそれそのまま、明治時代の洋画家史、新劇史になるのだから、鷗外とは偉大な水先案内人と言える。

ところで記念館の展示で私がつとも身近な関心を持っていたのが2015年の「ドクトル・リンタロウ——医学者としての鷗外」であった。



この展示会の際、医学生時代の私が医師で文学者なる人物に関心を持って夢中になって読んでいたことを思い出した。森鷗外のほかには、斎藤茂吉、木下李太郎、水原秋櫻子、チエーホフ、カロッサ、デュアメルなどで

ある。茂吉は鷗外の博覧強記を讃えていた。そして私は鷗外の小説を3割ばかり読み進んでいた。それは懐かしい医学生の日常であった。

斎藤茂吉に「森鷗外先生」という随筆がある、1922年9月、ドイツ留学を目前にひかえた茂吉が鷗外を訪問する話である。「高瀬舟縁起」を話題にし、ユウタナジイという言語を教えられた。その意味を問うと、鷗外は「タナトス」と答えた。「ラテン語でございませうか」と問うと、「いやギリシャ語だ」という答え。この逸話から、茂吉が鷗外の学殖に感嘆している様子がわかる。彼は歌集「儂紅」に4首の鷗外吟を残している。その1首、

うつけみの吾も老ゆれば日をつぎて  
森鷗外先生をしきりに思ふ

木下李太郎は鷗外をつぎのようにたたえた。

「森鷗外は謂はばテエベス百門の大部である。東門を入つても西門を窮め難く、百家のおのの一両門を視て他の九十八門を遺し去るのである。」



## 展示のお知らせ

開館5周年記念、文の京ゆかりの文化人顕彰事業  
特別展 **明治文壇観測**

——鷗外と慶応3年生まれの人たち

慶応3(1867)年は、明治を代表する文人たちがそろって誕生した年として記憶されています。夏目漱石、幸田露伴、尾崎紅葉など一時代を築いた文豪たち、俳句・短歌の革新に力を注いだ正岡子規、辛辣な批評家として活躍した齋藤緑雨、劇評の近代化に努めた三木竹二(鷗外の弟・森篤次郎)などが、この年に生まれました。鷗外は彼らより5歳年上ですが、彼らとともに日本の近代文学史に足跡を遺しました。



三人元語同人 明治30年 左から、鷗外、幸田露伴、齋藤緑雨  
本展では、鷗外主宰雑誌「めざまし草」を座標軸に、鷗外と慶応3年生まれたちの文学交流を辿ります。鷗外・露伴・緑雨・紅葉らによる合評形式の芸評論、子規一門の句が多く掲載

された俳句欄、創刊号から連載された三木竹二の劇評など、「めざまし草」には、近代文学の発期を主導した鷗外と慶応3年生まれたちとの共演が目立ち

ます。一方で、文学史を眺めたとき、「めざまし草」の時代は文壇が変化していく時期と重なります。日清戦争後の社会情勢の変化に伴う新しい文学の登場と模索、道半ばでの死、自然主義思潮の登場……。同じ時代を生きた者が、歩み方や活躍時期を同じくするとは限りません。それぞれの業績を「鷗外」という定点から観測した時、何がみえてくるのでしょうか。今年150歳を迎える慶応3年生まれと鷗外による「明治文壇観測」を試みます。

会 期 ●2017年 10月7日(土)

——2018年 1月8日(月・祝)

(会期中の休館日)11月28日(火)、12月26日(火)

12月29日(金)・2018年1月3日(水)

会 場 ●文京区立森鷗外記念館 展示室1、2

開館時間 ●10時~18時(最終入館は17時30分)

観覧料 ●一般500円(20名以上の団体・400円)

※中学生以下無料、障がい者手帳ご提示の方と同伴者1名まで無料

※文武ふるさと歴史館入館券、パンフレット(押印)、友の会会員証ご提示で割引あり※その他各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。

### 関連事業のお知らせ

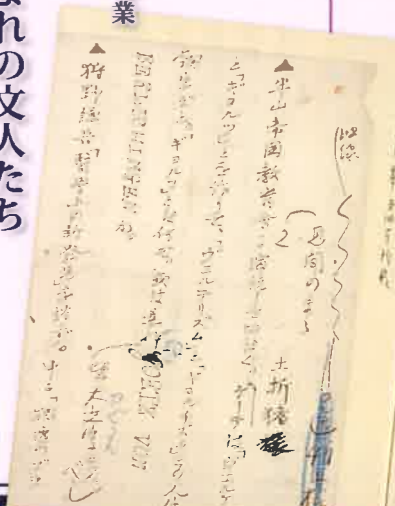
展示会期間中に関連講演会を予定しております。事前申込制、定員50名です。申込方法は7頁をご覧ください。

「森鷗外と三人の慶応3年生まれの男たち——露伴・緑雨・紅葉」

講師 坪内祐三氏(文芸評論家)  
日時 11月26日(日) 14時~15時30分  
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室  
定員 50名(参加費と本展の観覧券(半券可)が必要)  
申込締切 11月6日(月) 必着

### 「森鷗外と正岡子規」

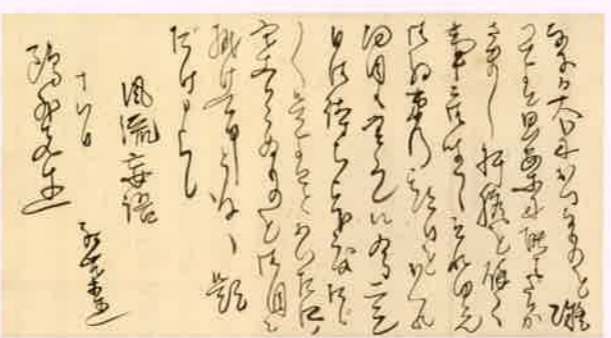
——めざまし草そのほか  
講師 森まゆみ氏(作家、編集者)  
日時 12月9日(土) 14時~15時30分  
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室  
定員 50名(参加費と本展の観覧券(半券可)が必要)  
申込締切 11月20日(月) 必着



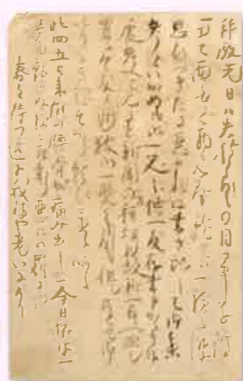
鷗外自筆原稿「見聞のま」  
「めざまし草」巻之54(明治34年10月)に「土折猪」の署名で掲載された。



「めざまし草」巻之8 明治29年9月  
俳句欄は、正岡子規と高浜虚子に委ねられ、子規一門の句が多く掲載された。その中には夏目漱石の俳句もあった。



尾崎紅葉筆鷗外宛書簡 [明治29年1月]18日付  
「めざまし草」への投稿が遅れる旨を知らせる内容。



「めざまし草」創刊号の扉表  
「正岡子規筆鷗外宛書簡 明治29年2月1日消印」  
新聞「日本」に掲載されたことを知らせている。

### ギャラリートーク

展示室にて当館学芸員が展示解説を行います。

10月18日、11月8日、22日、  
12月6日、20日  
いずれも水曜日 14時~(30分程度)  
申込不要(展示観覧券が必要です)

★スライドレクチャー  
当館2階講座室で特別展についてスライドを用いて解説をします。

2018年1月6日(土)  
14時~(30分程度)  
申込不要(展示観覧券が必要です)

# 展示報告

コレクション展

## 「森家三兄弟——鷗外と二人の弟」

会期：2017年7月7日(金)～10月1日(日)

森鷗外記念館では、「近代日本の創造者」と鷗外との関わりを本年の年間テーマとし展覧会を開催しています。本年は、森家の次男・篤次郎(筆名・三木竹二)の生誕150年にあたりです。篤次郎は、文学界で一時代を築いた文人たち―夏目漱石、幸田露伴、正岡子規、尾崎紅葉等―と同年です。演劇の分野で名を遺したにも関わらず、彼等と比べると篤次郎の名前を聞く機会ほとんどありません。本展はこの篤次郎の業績、併せて末弟・潤三郎と長兄・鷗外(林太郎)の兄弟の絆を紹介すべく企画しました。

展覧会では、三兄弟の絆を象徴する資料として、印「参木之舎」を最初に紹介しました。これは、17歳の鷗外が篤次郎とともに使用していた蔵書印で、印面の文字は「森が三つの木」から成ることに因みます。このアイデアを展覧会のメインビジュアルにも取り入れ、三つの「木」の文字に三兄弟の肖像写真を配したデザインを作成しました。



中央上：印「参木之舎」



関連グッズはミニ展示ガイドとメインビジュアルの缶バッジ!

展示は三部構成とし、書簡や刊行物、原稿等の資料を展覧することで、互いに支え合っていた三兄弟の文業や、弟たちそれぞれの生涯を紹介しました。展示を通して、時代に埋もれてしまった弟たちの業績を掘り起こすとともに、鷗外の文業においても篤次郎と潤三郎の手厚い支援があったことを示しました。数々の重大な業績を残してきた「文豪・森鷗外」も、弟たちに慕われながら、その協力を得ていたと考えられる、どこか親しみが感じられます。

また本展より、コレクション展限定の「ミニ展示ガイド」を制作・販売しています。展覧会の解説パネル、資料キャプション、年譜のテキストを全て掲載しており、展覧会を振り返っていただくのに最適です。ご来館の記念には是非お求めください。

会期中には関連講演会として、神山彰氏(明治大学教授)に篤次郎が見た明治の演劇の劇場の環境や興行制度、役者の顔触れについて詳しくお話しいただきました。

「森家の人々の芝居見物」  
—森篤次郎(劇評家・三木竹二を中心に)—  
日時：9月9日(土) 14時～15時30分

### これからの催しもの

<p>9月18日(月・祝) 13:00～14:30</p> <p>朗読会「やさしい朗読・よみかかせ」</p> <p>朗読：磯部延之氏(全国学校図書館協議会) 会場：講座室 料金：無料 定員：15組 対象：幼児、小学生とその保護者 申込締切：9月1日(金)必着</p>	<p>9月27日(水) 10:30～12:30</p> <p>鷗外をめぐる散策「鷗外記念館から竜泉の一葉旧居跡へ」</p> <p>講師：倉本幸弘氏(森鷗外記念館常任理事) ※雨天の場合は、当館内で「鷗外と一葉」の講座を行います。 会場：上野界隈 料金：1000円 定員：15名 申込締切：9月11日(月)必着</p>
<p>10月7日(土)、8日(日) 10:30～15:00</p> <p>鷗外マルクト「おいしい秋の津和野」◎</p> <p>会場：当館前、エントランス</p> <p>ドイツ語で「市場」を表す「マルクト(Markt)」。森鷗外記念館では、テーマや季節に沿って、生鮮食品や名産品を販売する「鷗外マルクト」を開催します。第一弾は、鷗外の故郷・島根県津和野町から「おいしいもの」をご用意します。 [共催：津和野町東京事務所]</p>	<p>11月26日(日) 14:00～15:30</p> <p>展示関連講演会「森鷗外と三人の慶応3年生まれの人たち——露伴・緑雨・紅葉」</p> <p>講師：坪内祐三氏(文芸評論家) 会場：講座室 料金：無料 ※参加票と本展の観覧券(半券可)が必要 定員：50名 申込締切：11月6日(月)必着</p>
<p>12月3日(日) 14:00～15:30</p> <p>文の京ワークショップ「ドイツの遊び」◎</p> <p>会場：講座室 料金：無料 定員：30名程度 申込締切：申し込み不要・直接会場へ 鷗外ゆかりの地・ドイツに伝わる、ボードゲームやカードゲームをしませんか?幅広い年齢の方々でお楽しみいただけます。[後援：公益財団法人日独協会]</p>	<p>12月9日(土)、10日(日) 10:30～15:00</p> <p>鷗外マルクト「ドイツクリスマスマーケット」◎</p> <p>会場：当館前、エントランス</p> <p>鷗外マルクト第2弾は、ドイツのクリスマスがテーマ!シュトレンなど、ドイツのクリスマスマーケットで定番の品々が登場します。</p>

### 文京区立森鷗外記念館 開館5周年記念イベント

<p>10月7日(土)～11月30日(木) 10:00～18:00</p> <p>開館5周年記念 応援メッセージ展示 ◎</p> <p>会場：2階図書室前</p> <p>皆様からいただいたメッセージを展示します。10月7日から11月11日まで、2階図書室にてメッセージをお書きいただけます。</p>	<p>10月29日(日)～11月2日(木) 10:00～18:00</p> <p>森鷗外記念館5周年のあゆみ展 ◎</p> <p>会場：講座室</p> <p>開館5周年を記念して、これまで開催された展覧会のポスター展示を行います。</p>	<p>11月1日(水) 10:00～17:30</p> <p>開館記念日行事 ◎</p> <p>開館記念日に展覧会をご観覧いただいた方に、オリジナルポストカードをプレゼント! 開館後には、津和野の酒蔵直送の鏡開きを行います。</p>
<p>11月1日(水)～30日(木) 10:00～18:00</p> <p>#鷗外を撮って SNSで発信しよう! ◎</p> <p>会場：導入展示室</p> <p>1ヶ月間の期間限定で、導入展示室の鷗外胸像を撮影いただけます。来館の記念に、鷗外を囲むの記念撮影はいかがでしょう。</p>	<p>11月2日(木) 11:00～15:00</p> <p>障がい者施設商品販売会 文の京ハートフル工房 ◎</p> <p>会場：当館前 ※雨天の場合はエントランス</p> <p>文の京ハートフル工房は、障がい者施設商品販売会です。パン、焼き菓子、手工芸品などの販売を予定しています。</p>	<p>11月3日(金・祝) 14:00～16:00</p> <p>書 パフォーマンスライブ ◎</p> <p>出演：森ナナ氏(アーティスト) 会場：館内 料金：無料</p>
<p>11月5日(日) 14:00～15:30</p> <p>特別講演会 「森鷗外 異文化との出会い ～ベルリン森鷗外記念館・新常設展示より～」</p> <p>講師：ペアーテ・ヴォンデ氏(ベルリン森鷗外記念館副館長) 会場：講座室 料金：1000円 定員：60名 申込締切：10月20日(金)必着 2017年3月にリニューアル開館した、ベルリン森鷗外記念館の副館長ペアーテ・ヴォンデ氏の来日に伴い、同氏担当の常設展示「森鷗外 異文化との出会い」についてお話いただきます。</p>	<p>11月11日(土) 13:30～16:00</p> <p>記念対談「鷗外 VS. 漱石」</p> <p>講師：山崎一穎氏(森鷗外記念館顧問、跡見学園理事長)、中島国彦氏(早稲田大学名誉教授) 作品朗読：内木明子氏(朗読家、早稲田大学・相模女子大学講師) 会場：文京区民センター3A会議室 料金：1000円 定員：200名 申込締切：10月23日(月)必着 鷗外研究者の山崎氏と漱石研究者の中島氏に、様々なテーマを通して鷗外・漱石文学の魅力について語っていただきます。また、お二人に「今読むならこの作品!」を紹介していただきます。内木氏による朗読もお楽しみに!</p>	<p>11月4日(土) 11:00～11:30 / 13:30～14:00</p> <p>ライアー(竖琴)コンサート—ドイツ音楽を中心に—◎</p> <p>演奏：三野友子氏(ライアー奏者) 会場：エントランス 料金：無料</p>

### カフェ情報



モリキネカフェでは、区内の洋菓子店・ボン・ヴィヴァンにご協力いただき、鷗外が好んだといわれる旬の味覚・サツマイモを使用したオリジナルケーキを、期間限定でご提供します。販売期間：10月7日(土)～11月30日(木)

### ◆◆上記イベントの申込方法◆◆

◎マークが付いているもの以外のイベントは、全て事前申込制です。各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様(はがき、Eメールどちらかお一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間以内に抽選結果をお知らせします。イベント詳細は、各チラシやHPをご覧ください。当館までお問い合わせください。悪天候等やむを得ない事情により、日程・講師・内容を変更する場合があります。

- ①往復はがき 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名(ふりがな)・住所・電話番号、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。
- ②Eメール 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名(ふりがな)・Eメールアドレス・電話番号を明記の上、bmk-event@morigai-kinenkan.jpまでご応募ください。 ※参加可否のご連絡をEメールでいたします。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめ確認のうえ送信ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

[ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外の使用はいたしません。]

# 活動報告

## 鷗外忌記念対談

今年の鷗外忌記念事業は「鷗外を通して人と社会との関係を考える」と題し、7月16日に小堀鷗二郎氏(医学博士、写真家)と倉本幸弘氏(森鷗外記念館常任理事)の対談を実施しました。当日は猛暑の中、多くの参加者にお越しいただき、鷗外を偲びました。

長年医療現場で生死に向き合ってきた小堀氏は、鷗外が生きていた頃の寿命は42、43歳と現在の半分程度、現在とは思想も違っていただろうと語られました。果たして長生きは幸せか、親子関係が強固になる現代社会の介護事情など、現役の医師である小堀氏の発言に、参加者は真剣に耳を傾けていました。また鷗外の遺言書は、時代が変わっても必ず訪れる個人としての最期、命との向き合い方を考えさせるといって倉本氏の言葉が印象的でした。

会場からは介護に関する質問も多く、小堀氏の明快な回答に沸き、笑い、質問者の表情は一瞬にして明るくなりました。物事を極めた方の言葉には力があるように感じました。



創作活動は非常に個人的な行為ですが、鷗外を通して繋がりが生まれ、個人と社会との関係を改めて考えるきっかけになりました。

## サマーイベント

### 「夏のハーブティーを楽しむ」

今春に開催された特別展「鷗外の(へ)庭」に咲く「草花」にちなんだハーブティーのイベントを、8月5日に開催しました。講師にはハーブプロフェッサーの野田千春氏をお招きし、ハーブの基本知識、美容や夏バテ防止に効果的なハーブティーの選び方、日常生活でのハーブティーの楽しみ方などを学びました。

「ハーブ」が自己治癒力を高めること、病を未然に防ぐことの一助になるなど、「自然の力」を学ぶことができたイベントとなりました。



## 「観潮楼をつくろう!」

8月8日、9日、幼児と小学校低学年を対象に、工作教室を開きました。夏休み中の元氣な親子にご参加いただき、段ボール、折り紙、ストロイ、ボタンなど身近な素材で自由に「私が住みたい観潮楼」に挑戦しました。笑顔のあふれるひとときとなりました。



# 2017年度後期 文京区立森鷗外記念館 開館カレンダー

10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

コレクション展「森家三兄弟—鷗外と二人の弟」  
10月1日(日)まで

特別展「明治文壇観測—鷗外と慶応3年生まれの文人たち」  
10月7日(土)～2018年1月8日(月・祝)

コレクション展「観潮楼に訪れた画家たち」(仮称)  
2018年1月13日(土)～3月31日(土) (予定)

● 休館日

## 編集後記

今年の夏は、小学校高学年～中学生を対象とした「鷗外ワークシート」の館内配布を開始しました。鷗外の生涯や作品をクイズ形式で紹介した小冊子で、展示室内の常設部分を觀賞すると解けるように作成しています。大人にとっても「難しい」という印象の強い鷗外ですが、小中学生の皆さんに関心を持っていただければ、留学や子ども達とのやりとりなど親しみやすいエピソードを中心に紹介しました。館内では、ワークシートを手に友達や家族と巡る小中学生の姿が散見されました。熱心に書きこむ様子はほほえましくもあり、宿題を絶対に終わらせようという気迫のようなものも感じました。

こういった小中学生、また、高校や大学の学生たちの姿を館内で見かけるのは珍しいことではありません。授業や部活、サークルの一環でご来館いただくことも多くあります。先日来館してくれた中学1年生は、3年前のまだ小学4年生だった頃に一度授業で来たことがあると話してくれました。当館は今年11月で開館5年を迎えます。5年の間に、小学生だった方が中学生に、中学生だった方が高校生になって、再び来館してくれることを嬉しく思います。本誌では次号21号を開館5周年号とし、特集を予定しています。



### ●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分

### ●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
  - ・都バス 上58番系統「団子坂下」下車 徒歩5分
  - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「18特別養護老人ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511  
URL: <http://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00 (最終入館は17:30)

休館日 毎月第4次曜日(祝日の場合は開館、その他例外あり)、  
年末年始(12月29日～1月3日)、及び展示替期間、煙蒸期間等

文京区立  
**森鷗外記念館**  
Mori Ogai Memorial Museum